

令和3年（2021）

■ 11月10日（水）

今年度調査の終了が近づきました。調査の成果を多角的に分析するために、各分野の専門家をお招きして、分析試料の採取など、分析の準備作業を進めています。

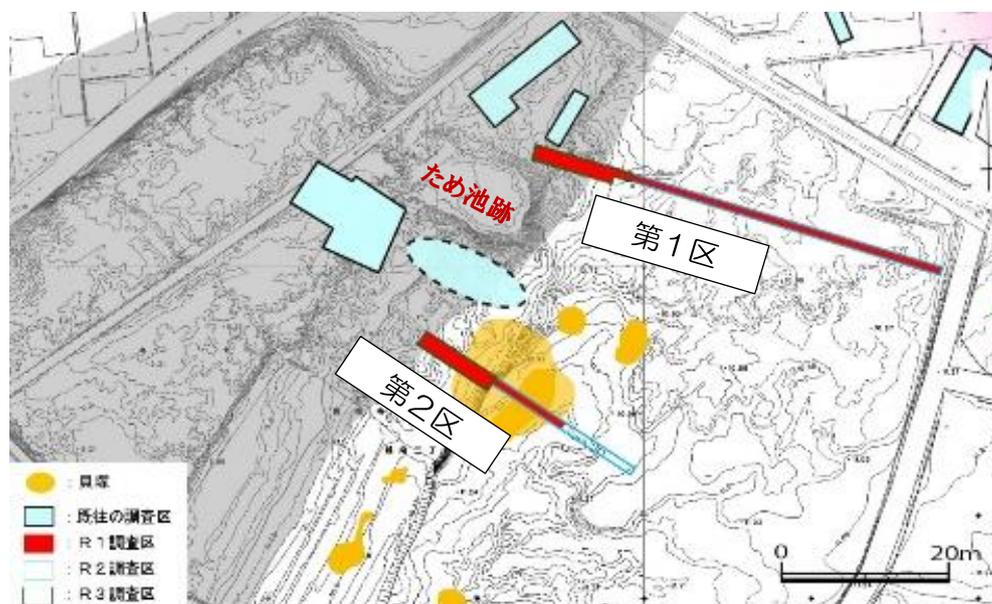


図1 調査区の位置

① 貝層の調査とサンプル採取

今日は動物遺存体の専門家にお越しいただきました。貝塚調査と詳細な分析のための貝層のサンプル採取についてご指導いただきました（写真1）。実施箇所は2区（南側の調査区）にある斜面貝層です。サンプル採取箇所は西側末端部付近です。

本地点は、後期中葉の複数の土器型式の貝層が累積した地点です。貝層を構成する貝はヤマトシジミが主体です。

上位の貝層は遺存状態が比較的良好、中間では貝の混入が比較的小さい層（混貝土層）、下位では破碎された貝の層（破碎貝層）の3枚の貝層が堆積していました（写真2）。

採取範囲は幅40cm、奥行き50cmの範囲で、厚さ5cmごとに、層の堆積に合わせて採取していただきました（写真3）。



写真1 貝層調査・サンプル採取の様子
貝層の様子を詳細に観察・記録しています



写真2 サンプル採取の範囲（黄色い枠）



写真3 サンプル採取を終えて

採取したサンプルは、整理室に持ち帰り、乾燥させたうえで重量を計ったのち、水洗します。その際、貝や土に混ざっている動物や魚の骨や植物の種子などを抽出していきます。フルイや筆、ピンセットなどを使う、細かな作業です。その上で、抽出できた貝や骨、種子等を専門家に分析していただきます。どんな動物・魚の骨なのか、体のどの部分なのか、加工の痕跡の有無、さらにはどんな環境に生息する動物・魚なのか……。貝層によって保存されてきた骨などは、縄文人たちの活動や食生活に関する情報の宝庫です。こうした分析を行うことで、真福寺貝塚の人々の実像に迫ってまいります。